

日本ボランティア学習学会 in おおいた 第1分科会報告

1 テーマとねらい

「地域・行政・学校の連携～地域で育み、地域に活かす～」

◎地域で育み、地域に活かす～コミュニティ課題解決のための多面的ネットワーク“つながる”コミュニティをいかに育むかは、いま社会に課せられた重要な課題である。多様な人びとの参画による福祉ネットワークづくりをはじめ、地域ぐるみの子育て支援のしくみづくり、地域社会に培われた多彩な「経験知」を活かした『協働教育』の推進、行政・地縁社会・市民活動を結んだ災害に負けないまちづくりをすすめるために、課題解決のための多面的なネットワークの構築が求められている。そうした現代的ニーズに応えたボランティア学習の推進と指導者の役割について協議した。

2 事例発表者及びコーディネーター

○事例発表者

①仙波英徳氏/えひめ子どもチャレンジ推進機構事務局長

市民が築いた「子ども」「地域」を考える集会～9年間の実践で見えたもの～

②大坪直子氏/神奈川県立鎌倉高等学校元教諭

地域は学びの宝庫「かまくら学」の実践～鎌倉高校と地域との協働によるメニュー開発～

③興梠寛氏/昭和女子大学教授・コミュニティサービスラーニングセンター長

『せたがや災害ボランティアセンター』が核となった、行政・大学・地縁組織を結んだ災害ボランティアマッチングシステム

○コーディネーター

高島弘行氏/日本ボランティア学習協会理事

3 分科会の概要

第1分科会には、大学生からシニアまで約20名の参加者が集まった。3人の事例発表者がそれぞれ自己紹介、事例紹介をして会場から質問や意見を受ける形で分科会は進み、参加者も加わった活発な議論が交わされた。

愛媛県で、今年で第10回を迎える「地域教育実践交流集会」の事例を紹介してくれたのは、NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構の仙波氏。市民発だからこそ出来る垣根を越えた「場」として、子どもに関わる実践家達がジャンルを越えて交流する場を、手弁当・個人参加による立場を越えた実行委員会方式で開催している。特徴的なのが、分散会という4時間にも及ぶ少人数で行う熟議の時間である。15の分散会・45事例もあるのだが、参加者は当日引いた「くじ」の結果で参加する分散会が決まる。くじという偶然の結果に従い、互いの実践を本音で語り合い、交流する。参加者が主役で司会はその盛り上がる話を「止める役」ということから、この交流集会に集う参加者の熱い思いが伝わってくる。また、

「研究」ではなく交流集会であることから、その評価基準を参加者数におき、4年目に勢いがなくなると5年目は対象年齢を高校生まで広げ「まちづくり」を視野に入れた。8年目には、信頼性と情報量のある行政を巻き込む（文部科学省の委託事業とする）ことで参加地区を広げた。前回の第9回では、集会の様子をケーブルテレビで追っかけ取材してもらい、動画サイトのYouTubeにアップした。このように、手弁当で集まり市民発の地域の教育力を高める、子どもの育成に関わる地域活動家・活動グループの交流集会の10年間のこれまでの発展と現状などの紹介に加え、12月の第10回交流集会にぜひお越しくださいとのPRも欠かさなかった。



事例①地域教育実践交流会

@い問の一昔でした。

第10回地域教育実践交流会要項

1.期 日 平成29年12月9日(土)～12月10日(日)

2.場 所 国立 大洲青少年交流の家

3.趣 旨 子どもの発達に不可欠な環境を構築および培成グループが、地域教育力を高めるための実地研修・実践の場を提供いたします。見聞の機会を多く提供するため、本年度からは、新たな協賛者も交流を促す予定です。今年も、50名以上の方にご参加いただき、多くの参加者による学びの場を創出いたします。お問い合わせ先は、事務局まで。詳しくは、<http://social.nac.go.jp/>

4.日 程 (※)

日 時	内 容	場 所
12月9日	歓迎アラフォー	
受付開始 12月9日 8時	野村中学校・野村高等学校 奉迎部	ホール
開 演 12月9日 9時	松山聖隷高等学校 徳義 表伊予大戦保存会	
13時30分	オガングリーン・上田和子	ホール
14時30分	読書会・読書会 読書会 読書会 読書会	各教室
17時30分	国営の広場 全国交流会 記念写真撮影	ホール
19時	交流会進行 西山博	食堂
12月10日 9時	めざしとどろ ンター・アライアンス	ホール
10時45分	特別企画 トークセッション(地域教育の明日を語る) 司 会 松山聖隷・中尾由司 協賛者 関根幸 関根幸・中尾及樹・仙道美穂	ホール
12月10日 12時30分	交流会 閉会式	ホール
12月10日 12時30分	解 散	

5.参加費 参加=2,000円、参加+交流会=5,000円、参加+交流会+宿泊=6,500円

新しい社会を創るための実践

主 催 地域教育実践交流会実行委員会（文部科学省 委託事業）
後 援 事務局・実践推進委員会
共 賛 実行委員会、事務局・実践推進委員会

地域教育実践交流会要項

続いて、神奈川県立鎌倉高校が1年生の総合的な学習の時間に設定する「かまくら学」の事例を同校元教諭の大坪氏が紹介してくれた。文武両道の進学校で、学校生活は勉強・部活動・学校行事が3本柱の同校では、鎌倉が「世界遺産登録」を目指してきた経緯から2007年より、歴史、自然、観光など様々な視点での探求学習として、また、地域との協働による学びを目的とした「協働メニュー」を推進。市民活動センター鎌倉が活動先を紹介するなどの協力を得ることで、2008年は3か所だった活動先が2017年には41か所に増え、希望者だけだったのが生徒全員が参加するカリキュラムとなり定着している。高校だけで行うのではなく、市民活動センターの協力を得た「協働メニュー」になったことで、鎌倉の市民活動、史跡・自然の保護・活用、子どもを育む活動、交流の場づくり、防災、伝統の継承など多様なメニューが用意され、生徒は興味ある分野で活動ができるようになった。この中で、生徒達は、市民が地域のことを主体的に考え、活動していることを知るようになり、また、活動先の団体側も生徒達をお手伝い要員として受け入れるのではなく、生徒達に活動の意義が伝わるように活動や体験の工夫をするなど、意識が変化していった。地元で活動する団体との強いつながりを持つ市民活動センターと学校とがうまくつながっ

たことで、高校生が学校のある地域に学び、地域の受け入れ先も若者とつながる。かまくら学は、学校通して地域と若者がつながる好事例である。



事例②かまくら学

かまくら学 協働メニュー2017(夏季休業中一休みの活動)

※協働メニューは協働先(学校)と協働メニュー(活動)の両方を示しています。
 ※協働メニューは協働先(学校)と協働メニュー(活動)の両方を示しています。
 ※協働メニューは協働先(学校)と協働メニュー(活動)の両方を示しています。

学年	協働先(学校)	協働メニュー(活動)	協働先(学校)と協働メニュー(活動)の両方を示しています。
小学1年生	鎌倉市立第一小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第二小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第三小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第四小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第五小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第六小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第七小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第八小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第九小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第十小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
小学2年生	鎌倉市立第一小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第二小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第三小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第四小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第五小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第六小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第七小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第八小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第九小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第十小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
小学3年生	鎌倉市立第一小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第二小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第三小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第四小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第五小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第六小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第七小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第八小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第九小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第十小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
小学4年生	鎌倉市立第一小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第二小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第三小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第四小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第五小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第六小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第七小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第八小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第九小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第十小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
小学5年生	鎌倉市立第一小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第二小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第三小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第四小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第五小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第六小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第七小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第八小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第九小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第十小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
小学6年生	鎌倉市立第一小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第二小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第三小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第四小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第五小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第六小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第七小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第八小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第九小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動
	鎌倉市立第十小学校	読書会	読書の楽しさを伝える活動

※協働メニューは協働先(学校)と協働メニュー(活動)の両方を示しています。

最後に、東京都世田谷区における「せたがや災害ボランティアセンター」が核となる、行政・大学・地縁組織を結んだ災害ボランティアマッチングシステムの事例である。90万区民を抱える世田谷区では、大災害の時には民間組織「せたがや災害ボランティアセンター」によって区内5か所にマッチングセンターが開設され市民の参画によって運営されることになっている。この活動を支えるのが「マッチングコーディネーター」と呼ばれる訓練されたボランティアである。ひとたび大災害が発生すると、被災地でのボランティア活動がスムーズに効率的に展開されるよう、ボランティアを受け入れ、被災者のもとへ送り出す“マッチング機能”を担うものである。このマッチングを担う人材を地域の人々や大学生に求めるとともに「災害ボランティアマッチングコーディネーター研修」を行っている。また、5つの行政区がある世田谷区では「せたがや災害ボランティアセンター」はマッチング拠点として、センター、区役所、近接大学との相互協力協定をもとに「マッチングセンター」を開設することになっている。“いつか来るそのとき”に備えた行政・大学・地域が協働したマッチングシステムのあり方と人材養成についての具体的な取り組みを紹介した興梠氏が、世田谷ボランティア協会理事長(当時)として世田谷区と「災害時におけるボランティア活動等に関する協定書」を締結するにあたり特にこだわったものが、区の要請に基づいて行ったボランティア活動に従事した者が災害対策基本法に規定する応急措置活動により死亡・負傷・病気・障害の状態となった時は、区の「水防又は応急措置の業務

に従事した者の損害補償に関する条例」の規定によりその損害を補償するものとした「損害補償」の条項を入れたことである。災害ボランティア活動従事者への損害補償を協定に入れることについて一年も協議し、盛り込んだことは「すごく大きなこと」としてその意義を語った。



事例③せがたや災害ボランティアセンター

3つの事例とも、地域で育み、地域に活かすというテーマのとおり、地域での様々なネットワークやつながりを活かして、ニーズに応える活動を行っていることがよくわかる内容であった。3者の話の中で気になったのは「市民発として志は高いが、その継続性が課題である」、「団体の高齢化が進み、また、担当教員や市民活動センターの担当者が替わる」などの後継者問題であるが、この課題についてはほかの団体・活動・地域でも抱えるものであるとし、次回以降の学会であらためて聞いてみたいと思う。

(日本ボランティア学習協会理事 高島弘行)